

平成26年度 みえスタディ・チェック 結果のまとめ

【小学校算数】

各学年の平均正答率

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
10月	—	69.4%	73.0%	67.1%	58.7%	68.1%
11月	—	54.6%	60.0%	56.5%	53.8%	58.7%
2月	82.9%	71.0%	59.7%	67.1%	33.7%	60.2%

全体の傾向

- 全国学力・学習状況調査における本県の課題である数量関係については改善が図られている。（青色の背景）
- 学年が上がるにつれて無解答率が高くなる。
- 提示されている考え方や求め方に基づいて考える問題の無解答率が高い。
- 既習事項を活用して考える設問の正答率が低い。特に図形の問題において、いくつかの図形が組み合わさって構成された図形について分析的に考える問題での無解答率が高い。
- 高学年においては全国学力・学習状況調査における本県の課題の改善が図られていない。

平成26年度の全国学力・学習状況調査結果における本県の課題における改善状況

※改善が図られた課題→青色の背景

- 単位量当たりの大きさの求め方を理解すること

※改善が図られていない課題→黄色の背景

- 日常の場面から、基準量と比較量を捉え、数量の関係（基準量、比較量、割合）を図に表したり、図から読み取ったりすること
- 作図の操作とその意味を考え、作図は図形の約束や性質に基づいていることを理解すること
- 数量や図形、数量関係を考察して見いだした事実を確認したり説明したりすること
- 問題を解決するために見通しをもち、筋道を立てて考え、その考え方や解決方法を説明すること
- 論理的に考えを進めてそれを説明したり、判断や考えの正しさを説明したりすること

【指導のポイント】

- 図に表された数量の関係を読み取って、それを式に表す活動や、式に表された数量の関係を読み取ってそれを図に表すなどの活動を通して、式と図を関連付けることができるように指導する。
- 示された解決方法を用いて別の問題の解決方法を考え、それを数や式、言葉を用いて説明することができるように指導する。
- 二つの数量のうちどちらを単位量とするかを判断し、立式の根拠を明確にさせる。

【問題例③】無解答率が最も高い問題

5年 円グラフのかき方を理解すること

正答率 30.5% 無解答率 20.0% (記述式)

- 3 下の表は、各都道府県の菜の花の出荷量をまとめたものです。次の(1)から(3)の問題に答えましょう。

菜の花の出荷量 (2010年)

都道府県	出荷量 (t)	割合 (%)
三重県	768	ア
群馬県	313	12
新潟県	275	10
東京都	204	イ
栃木県	190	7
その他	878	34
合計	2628	100

(農林水産省統計データによる。)

- (1) 表のア、イに当てはまる数を、四捨五入して整数で書きましょう。

- (2) 表の割合をもとにして、解答用紙に円グラフをかきましよう。

※円グラフの線以外には、「都道府県名」と「その他」だけを記入し、割合の数値を記入する必要はありません。

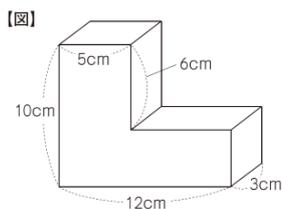
- (3) その他についても調べたところ、福岡県は6%でした。福岡県の菜の花の出荷量はおよそ何tですか。小数第1位を四捨五入して求めましよう。

【問題例④】正答率が最も低い問題

5年 立方メートルで表す大きな体積の計算を行うこと

正答率 13.6% 無解答率 7.1% (短答式)

- 3 けんじさんとわたるさんは、【図】の立体の体積を、いろいろな方法で求めました。次の(1)から(3)の問題に答えましよう。



- (1) けんじさんは、【図】の立体を2つの直方体に分けて、体積を求めました。けんじさんがそのときたてた式は次の2つで、それらの答えをたして、直方体を組み合わせた形の体積を求めました。

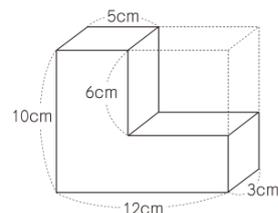
けんじさんの式

$$3 \times 5 \times 10$$

$$3 \times (12 - 5) \times (10 - 6)$$

けんじさんは【図】の立体をどのように分けて考えたのでしょうか。解答用紙の図に線をかき入れ、2つの直方体に分けましよう。

- (2) わたるさんは、下のように、大きな直方体から小さな直方体をひいて、【図】の立体の体積を求めました。わたるさんの考え方をもとにして体積を求める式と答えを書きましよう。



- (3) たて50cm、横2m、高さ70cmの直方体があります。この直方体の体積は何m³ですか。答えを書きましよう。